

# 2008年夏季の根室海峡における エトピリカ *Lunda cirrhata* および アホウドリ科 Diomedidae 3種の出現記録

佐藤 晴子<sup>1</sup>・石井 輝章<sup>2</sup>・長谷川 正人<sup>3</sup>

1. 086-1831 北海道目梨郡羅臼町富士見町57, 知床・根室海峡シャチ連絡会 2. 086-1815 北海道目梨郡羅臼町海岸町464  
3. 086-1833 北海道目梨郡羅臼町本町27-1, (有)知床ネイチャークルーズ

## Tufted Puffins *Lunda cirrhata* and Three Diomedidae Species Occurred in Nemuro Strait, Eastern Hokkaido, 2008

SATO Hal<sup>1</sup>, ISHII Teruaki<sup>2</sup> & HASEGAWA Masato<sup>3</sup>

1. Shiretoko–Nemuro Strait Orca Group, 57 Fujimi-cho, Rausu, Hokkaido 086-1831, Japan. DZF14072@nifty.com 2. 464  
Kaigan-cho, Rausu, Hokkaido 086-1815, Japan 3. Shiretoko Nature Cruises, LTD., 27-1 Hon-cho, Rausu, Hokkaido 086-  
1833, Japan

Tufted puffin *Lunda cirrhata* is one of critically endangered, and, short-tailed albatross *Diomedea albatrus* is also one of the endangered sea bird species in Japanese waters. On the local whale watching and other boat trips, we logged opportunistic sightings of these two, and two more Diomedidae species off Rausu, in northern part of Nemuro Strait, eastern Hokkaido, Japan, 2006–2008. The 2008 sightings and photographs were shown on the table and figures.

### はじめに

北海道東部の根室海峡は、北海道側岸の北部を知床半島、同南部を根室半島に接し、さらに対岸を国後島（北方四島のひとつ、南千島）に挟まれている。著者らは、当海域の北部・羅臼沖で2006–2008年にエトピリカ *Lunda cirrhata* とアホウドリ科 Diomedidae 海鳥を観察している。いずれも根室海峡での出現はまれであり、貴重な情報なので目視回数をもっとも多い2008年の観察について報告する。

ウミスズメ科のエトピリカは、体は黒色、顔が白色、縦に扁平なオレンジ色の大きなクチバシ、目の後方に黄白色の飾り羽を持ち、潜水して魚や甲殻類を捕食する（高野2001; 河井ら2003）。本種は北海道では個体数が激減、1993年に種の保存法に指定され、根室半島では太平洋側のユルリ、モユルリ両島で15つがいほどが繁殖するのみだが（高田

2001; 河井ら2003; 根室市教育委員会2005）、国後島、歯舞群島（諸島）をふくむ北方四島（南千島）では多数の棲息・繁殖が確認されている（近藤2000; 川那部ら2002; 中岡ら2002）。知床・根室海峡海域では中川（1988）や斜里町立知床博物館（2005）にリストアップされている。

アホウドリ科のアホウドリ *Diomedea albatrus*、コアホウドリ *D. immutabilis*、クロアジアホウドリ *D. nigripes* はいずれも翼開長199–220 cmにも達する大型の外洋性海鳥で、繁殖期以外、あるいは繁殖に参加しない若い個体は太平洋に広く分布し、主に魚類やイカを捕食する（高野2001; 河井ら2003）。これら3種のうち、コアホウドリとクロアジアホウドリは北海道の太平洋側でしばしば観察され（河井ら2003）、根室半島ではいずれも鳥類目録にリストアップされている（高田2001; 根室市教育委員会2005）。一方で、国の特別天然記念物であ

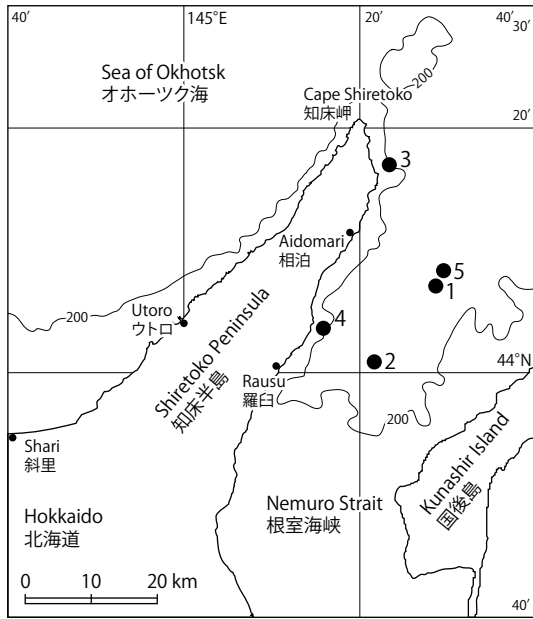


図1. 2008年のエトピリカ観察地点. Fig. 1. The sighting positions of tufted puffin, 2008.

アホウドリの出現は、知床・根室海峡海域では佐藤ら(2008)がはじめての報告である。

### 方法

2006年から、著者の一人である長谷川は北海道東部の羅臼町を拠点に、2-10月、根室海峡の北部・羅臼沖でホエールウォッチングを中心に観光船「エバーグリーン」(19t, 旅客定員50人)を運航している。

2008年、著者らは本船からイルカ・クジラ、アザラシ・トド、海鳥の生態の観察を行なった。航海は主に羅臼漁港から2時間30分-3時間で日露中間線付近を相泊やペキンの鼻沖まで往復する「イルカ・クジラ、海鳥ウォッチング」であり、ほか、知床岬先端部、その先の知床堆付近まで、日露中間線付近と知床半島の岸寄りをランダムにやや長時間航海した。1-11月、計245航海816時間ほど観察したが、大型群をなす種をのぞき、海鳥の発見は主に海棲ほ乳類探索中に偶発(副次)的に記録されたものである。

### 観察

2008年、エトピリカは6-7月に計5回、5群6羽

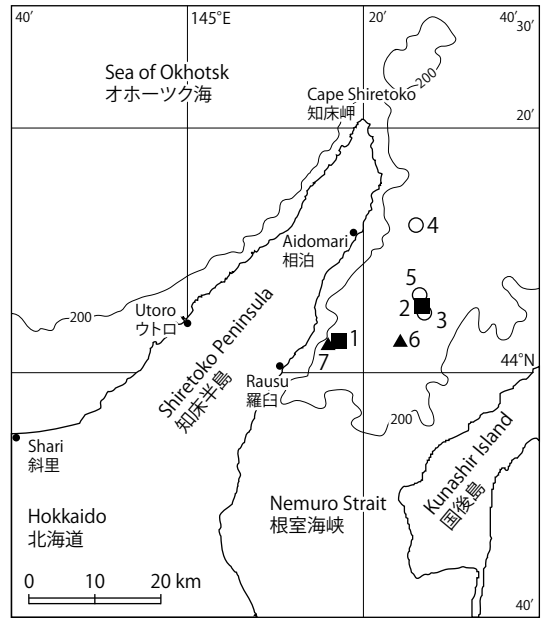


図2. 2008年のアホウドリ(■), コアホウドリ(○), クロアシアホウドリ(▲)の観察地点. Fig. 2. The sighting positions of short-tailed (closed square), Laysan (open circle) and black-footed (closed triangle) albatrosses, 2008.

確認した。アホウドリ科3種、アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリは6-8月と11月に計7回、7群8羽確認した。図1にエトピリカの、図2にアホウドリ科3種のそれぞれの発見位置を、表に各観察情報を示す。

エトピリカは、知床半島の海岸付近でも日露中間線付近の沖でも発見された(図1)。6月23日をのぞいて飛行中に発見された。6月13日の個体(図3)は本船上空を偵察するかのように一周し、沖に飛び去った。6月23日(図4)のみ複数個体の群れであり、かつ2羽のウトウ *Cerorhinca monocerata* と混在していた。いずれの観察でも、エトピリカのクチバシに餌を確認しておらず、周囲に多数の海鳥の集合を確認していない。

アホウドリ科3種も、知床半島の海岸付近でも日露中間線付近の沖でも発見があった(図2)。3種いずれも他のアホウドリ科の海鳥と混在せず、他の海鳥との混在も後述の1例のみである(11月21日は、発見時単独、船の接近回避後の着水点でカモメ類に混在した:図8)。7月24日のアホウドリ(図6, 7)以外、単独群であった。いずれも発見時は落

表. 各観察の記録, Table. Each observation records.

位置図 Fig. number	位置図中の番号 Location number on Fig.	観察年月日 Date (Year, Month,Date)	観察時 Time	緯度経度 Coordinates	群れ数 Group	個体数 Group size	水温(°C) Water temp.	備考 Remarks
エトピリカ <i>Lunda cirrhata</i>								
1	1	2008.06.13	10:20	44°07.085'N 145°28.630'E	1	1	9.8	図3
	2	2008.06.17	09:30	44°00.882'N 145°21.642'E	1	1	9.7	
	3	2008.06.23	10:25	44°17.000'N 145°23.350'E	1	2	10.9	図4, ウトウ <i>Cerorhinca monocerata</i> 2羽と混在
	4	2008.06.27	14:02	44°03.631'N 145°15.857'E	1	1	10.7	
	5	2008.07.12	17:30	44°08.340'N 145°29.052'E	1	1	12.0	図5
アホウドリ <i>Diomedea albatrus</i>								
2	1	2008.07.24	11:33	44°02.597'N 145°17.223'E	1	2	13.7	成鳥(図6)と幼鳥(図7) An adult and a juvenile
	2	2008.11.21	09:40	44°05.447'N 145°26.635'E	1	1	7.4	幼鳥(図8) A juvenile
コアホウドリ <i>Diomedea immutabilis</i>								
2	3	2008.06.17	14:35	44°04.895'N 145°26.924'E	1	1	10.6	図9
	4	2008.06.17	15:39	44°12.066'N 145°25.975'E	1	1	-	
	5	2008.06.25	11:25	44°06.350'N 145°26.389'E	1	1	10.4	図10
クロアシアホウドリ <i>Diomedea nigripes</i>								
2	6	2008.08.11	09:57	44°02.633'N 145°24.192'E	1	1	17.3	図11, 右脚にブルーリング with a blue banding
	7	2008.08.19	15:40	44°02.366'N 145°15.982'E	1	1	18.0	図12, ハイイロミズナギドリ <i>Puffinus griseus</i> と混在

ち着いた様子で着水しており、船の意図的接近により近距離あるいは遠方に飛行回避した。8月19日のクロアシアホウドリ(図12)のみ、活発に海面上空を飛び交うハイロミズナギドリ *Puffinus griseus* と少数のカモメ類と混在しており、これらは捕食行動中と推察された。この頃、羅臼沖に多量の小型のサンマなどの魚群が分布しており、クロアシアホウドリの行動との相関が考えられた。ほか、8月11日のクロアシアホウドリ(図11)の右脚に、ブルーのリングが装着されているのが確認できた。

### 考察

少なくとも1996年以降、根室海峡のほぼ全域—北部(羅臼沖)、中央部(標津・別海沖)および南部(根室沖)一で、頻度はまれに散発的にエトピリカの発見がある(近藤2000;中岡ら2002;川那部ら2002;戸塚2008;石名坂・田澤私信;佐藤未発表)。

佐藤ら(2008)は、当海域の夏季のアホウドリの分布が常態かどうか将来もモニタする必要性を指摘した。一方で著者の一人である長谷川は、観光船業開業以前の漁業従事期、当海域の同業者から知床岬先端部沖などでアホウドリ科海鳥と推測される大型海鳥の複数の目撃談を得ており、このことから、種の特定は困難だがアホウドリ科海鳥の飛来はこれまでもあったのかもしれない。

いずれにせよ、根室海峡に出現する他の海鳥とくらべて確実な目視頻度の少なさから、エトピリカ、アホウドリ科3種とも、同海峡の少なくとも北海道側半分の海域では特筆すべき稀少種と考えられる。そしてこれらの出現は、環境の変化と相関する可能性があり、今後もその出現に注目したい。

また、当海域では現在複数の観光船が運航されている。このことは、観察対象の生き物との望ましい共存の観点では課題がある一方、これまで容易ではなかった当海域の沖合いをふくめた多様な海の生物の出現記録や生態観測の機会を増加させる。本報告はその一例であり、観光船の運航が生物学的情報をもたらすひとつの重要な手段として

地域および社会に貢献しているといえよう。

### 謝辞

知床海鳥研究会の福田佳弘氏、(財)知床財団の田澤道広氏と石名坂豪氏、斜里町立知床博物館の中川元氏には草稿に目を通して助言をいただき、田澤・石名坂両氏には貴重な情報もいただいた。また知床博物館の内田暁友氏には地図を作成していただいた。ここに厚くお礼申し上げる。

### 引用文献

- 河井大輔・川崎康弘・島田明英. 2003. 北海道野鳥図鑑. 399 pp. 亜璃西社, 札幌.
- 川那部真・市田則孝・金井裕・川崎慎二・藤巻裕蔵・佐藤文男. 2002. 北方四島の鳥類相. *Strix* 20: 79-100.
- 近藤憲久. 2000. 北方4島におけるエトピリカ (*Lunda cirrhata*) の繁殖状況. 根室市博物館開設準備室紀要14: 11-15.
- 佐藤晴子・田澤道広・長谷川正人. 2008. 知床・根室海峡におけるアホウドリ *Diomedea albatrus* の確実な初の連続目視記録. 知床博物館研究報告29: 11-15.
- 斜里町立知床博物館(編). 2005. データブック知床・2005. 119 pp. 斜里町立知床博物館協力会, 斜里.
- 高田令子. 2001. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要15: 95-114.
- 高野伸二. 2001. フィールドガイド日本の野鳥. 343 pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
- 戸塚学. 2008. 海鳥ホットスポット“羅臼”. *Birder* 20(7): 48-49, 74-75.
- 中岡利泰・星野広志・渡邊有希子・服部薫. 2002. 色丹島・歯舞群島における海鳥類の記録. 根室市博物館開設準備室紀要16: 5-14.
- 中川元. 1988. 3鳥類. 大泰司紀之・中川元(編著), 知床の動物. pp 59-121. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 根室市教育委員会. 2005. 根室市鳥類生息調査報告書. 131 pp. 根室市教育委員会, 根室.



図3. 2008年6月13日撮影のエトピリカ. **Fig. 3.** A tufted puffin, June 13, 2008. Photo.: Teruaki, Ishii



図4. 2008年6月23日撮影のエトピリカ (前方2羽). 後方の2羽のウトウと混在していた. **Fig. 4.** Two tufted puffins (front) with two hornbilled puffins *Cerorhinca monocerata*, June 23, 2008. Photo.: Teruaki, Ishii.



図5. 2008年7月12日撮影のエトピリカ. **Fig. 5.** A tufted puffin, July 12, 2008. Photo.: Teruaki, Ishii.



図6. 2008年7月24日撮影のアホウドリ (成鳥). **Fig. 6.** An adult short-tailed albatross, July 24, 2008. Photo.: Hal, Sato.



図7. 2008年7月24日撮影のアホウドリ (幼鳥). **Fig. 7.** A juvenile short-tailed albatross, July 24, 2008. Photo.: Hal, Sato.



図8. 2008年11月21日撮影のアホウドリ (幼鳥). **Fig. 8.** A juvenile short-tailed albatross, November 21, 2008. Photo.: Hal, Sato.



図9. 2008年6月17日撮影のコアホウドリ. **Fig. 9.** A Laysan albatross, June 17, 2008. Photo.: Teruaki, Ishii.



図10. 2008年6月25日撮影のコアホウドリ. **Fig. 10.** A Laysan albatross, June 25, 2008. Photo.: Hal, Sato.



図11. 2008年8月11日撮影のクロアシアホウドリ. **Fig. 11.** A black-footed albatross, August 11, 2008. Photo.: Teruaki, Ishii.



図12. 2008年8月19日撮影のクロアシアホウドリ. **Fig. 12.** A black-footed albatross, August 19, 2008. Photo.: Hal, Sato.